

=市史編さん便り= 【8号】 令和4年5月13日(金) 発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

◎足摺岬小学校の総合学習(校区の歴史&文化財)

本日(5月13日)の5~6校時、標記の総合学習で「校区の歴史&文化財」についての出前授業を同校の平林也奈校長先生の依頼があり、実施させていただきました。

授業では、これまで足摺岬や松尾で生活してきた中で、自分たちが知っていること、つまり、「地域の歴史や文化財について、お爺ちゃんやお婆ちゃん、家族等から聞いた見たりして知っていることはないですか?」との問いから授業がスタートしました。

親・子・孫と口伝えに伝播されてきた地域の歴史等についての継承が、少子高齢化や過疎化のため、途絶えようとする状況で、地域を教材とした授業実践は、今後極めて大切な取り組みとなるにちがいありません。

今回の授業では2時間続きの授業でしたが、当初の計画では下記の①~④の内容を学習する企画でした。内容がかなり張っており、★の①③に内容を絞り授業を実施することになりました。

①江戸時代より昔の校区の歴史や文化財★

②江戸時代の校区の歴史や文化財

③太平洋戦争中の校区の戦争遺跡★

④校区の文化財



(1) 江戸時代より前の足摺岬小学校区の歴史&文化財

唐人駄場遺跡や山ノ神遺跡等から大分県姫島産黒曜石製の石鏃が多く表採されていることを学習した。当時は不安定な丸木舟等で荒海を乗り越えて石材を運搬するなど、命がけで石材を運搬し、矢じりなどを製作していたと思われる。大分県の北部に浮かぶ、姫島北西部の観音崎には灰白色の黒曜石が岩盤に露頭し、はるか太古の縄文時代の歴史を彷彿させる。



江戸時代の『土佐物語』にある足摺七不思議の一つ、「不増不減の手水鉢」のエピソードを通して、補陀落(補陀洛・普陀洛) (ふだらく)信仰について説明した。中世は衛星写真もなく、東西南北の方位観も現在とは異なった。現在は北海道や東北地方が北であるが、当時の方位観では北が佐渡や能登であった。南は、薩摩や琉球ではなく、紀州熊野や土佐室戸岬や足摺岬であった。インド南洋上に存在すると信じられていた観音の住居である「補陀落(普陀洛)世界」(浄土)の東端の入口が、熊野・室戸岬・足摺岬にあると信じられていた。その補陀落信仰の聖地として足摺岬が位置付けられていることを学習した。

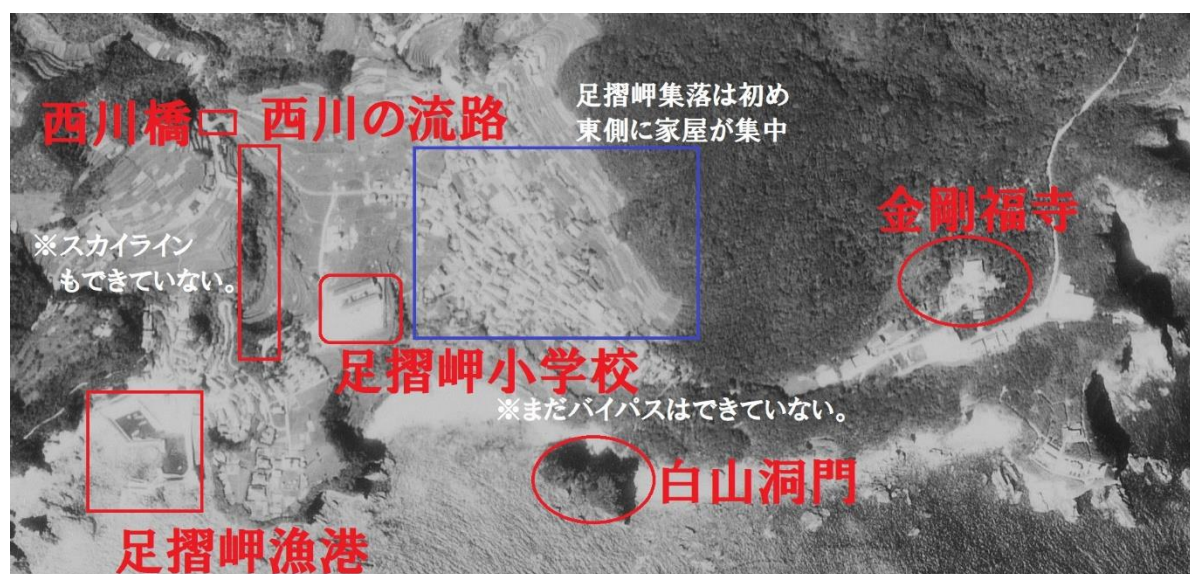
(3) 太平洋戦争中の校区の戦争遺跡

足摺岬の天狗山にある海軍足摺探信所(電探基地)の基礎コンクリート跡、弾薬庫跡、兵舎跡。松尾の女城鼻監視哨。両地区にある防空壕等について写真を見せながら説明を加えた。



今回の授業では、内容が多く、全部学習をすることはできなかったが、あらためて地域の歴史や文化財の学習が重要であることは児童たちにも分かったことと思う。これを良い機会としてこれからも地域のことをじっくりと学習してほしい。児童たちが逆に家庭で大人たちに身近な地域の歴史や文化財について語るにより、その啓発を進めていくという方法も有りだと思う。

◎昭和30年代の足摺岬地区の航空写真(土佐清水市教育センター所蔵)



前頁下段の写真は、市史編さんにおける資料調査により土佐清水市教育センターより収集した昭和30年代頃撮影したと推測される航空写真をトリミングした物である。現在、足摺岬地区を撮影した古い写真が、住民の高齢化と断捨離などでほとんどなくなっている。昭和30年代の集落航空写真が資料の中から見つかったことは貴重であるし、その資料的価値は高い。

写真をよく観察すると、足摺岬小学校の木造校舎が南北に二列で並列していることが分かる。昭和53年(1978)に現在の校舎になる前は、学校敷地の北側に木造の校舎があった。

集落東側の駐在所から足摺スカイライン入口までのバイパスは、この当時まだ開通していない。バイパスやスカイラインが開通するのは昭和45年(1970)のことになる。その後、西川橋以南の西側が大きな水道管が敷設され、バイパスまで埋め立てられ、現在の市営駐車場が昭和47年(1972)完成した※1。

この頃、ちょうど田中角栄内閣が成立し、中国の周恩来首相と田中角栄首相との会談が行われ、日中共同声明が発表された。その後、第4次中東戦争のあおりで一時石油の輸入が円滑にいかなくなり、石油危機(1973~74年)が到来し、不況と激しい物価上昇に当時みまわれ、日本経済は大混乱に陥った※2。

写真を全体的に概観すると、集落は足摺岬地区の東側に集中している。このことから中世や近世の足摺岬地区は、地区東部から家屋の形成が始まり、少しずつ全域に家々が広がっていったことが推測できる。地区は白皇山を源とする西川が南北に足摺岬漁港に注ぎ、この河道が、足摺岬中心集落と灘・浜及び堂ヶ森地区を分断していた。現在の足摺国際ホテルから南部を「浜」、そこから西側の大岩周辺までを「灘」、そこから大戸までを「堂ヶ森」と呼んだ。

中世『長宗我部地検帳』の「足摺之村地検帳」(天正17年・1589)によると、足摺之村の範囲は、大谷境から、白岩之村(現在の赤瀬北部)・アカハイ之村(現在の赤瀬)・足摺ノ村(金剛福寺周辺・寺直分)・伊佐之村(本村)・大ウトノ村(現在の大戸)で構成されている。本村が伊佐之村でありそれ以外は枝村として位置付けられている。これが現在の足摺岬地区である。また、別途同じ年に「松尾之村地検帳」も作成されており、足摺之村から独立した一つの村であった。中世「足摺之村」と「松尾之村」が現在の足摺岬小学校の校区となる。

※1 中村春利「近代・現代」(『土佐清水市史上巻』土佐清水市、1980年)

※2 笠原一男『詳説日本史研究』山川出版社、1981年。



【編集後記】

梅雨にしては少し早い気がします。このところの連日の雨は、「梅雨入り」を連想させます。ただ、蒸し暑いどころか、朝夕は寒い時もあり、ここ十数年ほど続いている天候不順を強く感じるのには私だけでしょうか。天候不順は、農作物にも影響を与えるばかりか、健康にも大きく作用してくると思います。今年は、猛暑になるのでしょうか。それとも冷夏になるのでしょうか。気になるところです。(田村)